



町長エッセイ



2020年の東京オリンピック・パラリンピックに関する報道が毎日のように聞こえてきます。開会まで3年を切ったので無理なからぬことでしょう。1964年大会から56年ぶりに東京に再び聖火が灯ります。ちなみに私は当時高校生でした。

聖火とともにオリンピック・パラリンピックを象徴するのが、大会を見守り引継がれていくフラッグ（旗）です。リオデジャネイロオリンピックの閉会式で、次回開催地・東京にフラッグが手渡された映像は記憶に新しいと思います。

フラッグの到着を記念して、東京オリジナルのオリンピック・パラリンピック・フラッグが制作され、希望する全国都道府県の市町村に貸出巡回されています。小川町には8月17日午前に着し、当日午後と18日の午前中、町立図書館に展示しました。

展示会場にはメッセージボードが用意され、訪れた皆さんが2020年に向けての応援や叶えたい夢、期待することなどの思いを文や絵にしたためていました。そしてフラッグ前で記念撮影する姿を見受けました。夏休み中だったので家族連れで訪れた方が多く、子どもたちが多くのメッセージを書いてくれました。

埼玉県も競技会場となります。重厚なフラッグを目の当たりにして、「2020年、がんばれ日本」の思いを私もボードに記しました。



松本恒夫